

ETK0043001D

スロット切断型後分岐用クロージャ M J C - F H 3 - B B 接続工法書

▽ご使用前に、この工法書をよくお読みの上内容をよく理解してから作業して下さい。
▽お読みになった後(工事終了後)も、工法書は大切に保管して下さい。



安全上のご注意 ~安全にご使用いただくために必ずお守りください~

この工法書には、人身への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にご使用いただくために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次に示すとおりになっています。内容をよくご理解の上、本文をお読みください。

	本クロージャに関する安全上のご注意			
↑ 危険 右記内容を無視して、誤った取り扱い をすると、人が死亡または重傷を負う可 能性が極めて高いことが想定されます。	ent .			
全告 右記内容を無視して、折った取り扱い をすると、人が完定すたは重備を負う可 軟性が例記されます。	・本クロージャは、落下などのないよう確実に固定してください。			
注意 右認内容を無視して、誤った取り扱い をすると、人が機像を負う可能性および、 物的損害のみの可能性が想定されます。	 ・ 刃物などのご使用には十分注意してください。 ・ 光ケーブルの固定を確実に行うために、適正なケーブル契持会具をご使用ください。 ・ 適正なグロメットおよびガスケットをご使用ください。浸水の原因となります。 ・ 締め付けトルクの規定をした作業は、その規定値を守って作業をしてください。浸水やクロージャ破損の原因となります。 ・ 本クロージャは防水タイプですが、海中・河川の水中・下水道などには設置しないでください。 ・ 塩害地域でのご使用の場合は、ステンレス鋼でも腐食する場合があります。 			
お願い お認内容を無視して、誤った取り扱い をすると、本製品の性能を発揮できない 可能性および、機能停止をまねく可能性 が想定されます。	・乾燥剤が必要な場合は、別途ご用意ください(性質上、長期保管できないため)。また、乾燥剤は光ファイバ心線に圧迫を与えない位置にお入れてださい。 ・光ファイバ心線に関しては、許容曲げ半径「R≧30mm」をお守りください。 ・融着作業に関しては、ご使用の融着接続機添付の取扱説明書をご覧ください。 ・本クロージャの解体・再組立・導入ケーブルの追加などの作業を行う際は別途、部品の交換や追加を必要とする場合がありますので、事前に野社・営業担当までご相談(ださい。 ・設置後、長期間(半年~1年程度以上が目安です)経過した後の、解体・再組立作業を行う際は、念のためグロメット(開塞栓)・ガスケットをあらかじめ、別途ご用意いただくことをおすすめします。			

スロット切断型後分岐用クロージャMJC-FH3-BB

作業工程フロー

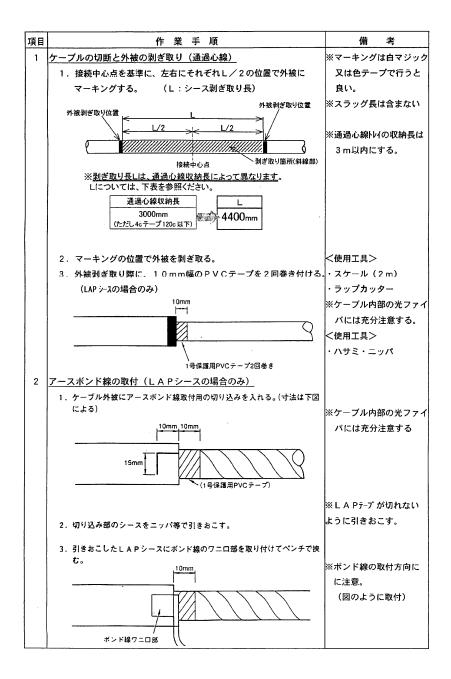
項目 番号	作業工程	項目 番号	作業工程
1	ケーブルの切断と外被の剥ぎ取り	1 4	分岐ケーブルの切断と外被の剥ぎ取り
2	アースボンド線の取り付け	1 5	アースボンド線の取り付け
3	ケーブル外被の研磨・清掃	1 6	ケーブル外被の研磨・清掃
4	ケーブルの引き寄せ	1 7	スロットの切断とテンションメンバの口出
5	識別チューブの挿入(スパイラルチューブ)	18	識別チューブの挿入
6	スロットの切断	19	ケーブル把持金具の取り付け
7	ケーブルのたぐり寄せ	20	ケーブルへのグロメット取り付け
8	スロットの切断とテンションメンバの口出	2 1	心線の融着接続
9	ケーブル把持金具の取り付け	22	心線の収納
1 0	ケーブルへのグロメット取り付け	2 3	スリーブガスケットの取り付け
1 1	スリーブ(上)の取り外し	2 4	スリープ(上)の取り付け
1 2	ケーブルの取り付け	25	ガスフラッシュテスト
1 3	通過心線トレイへの収納		

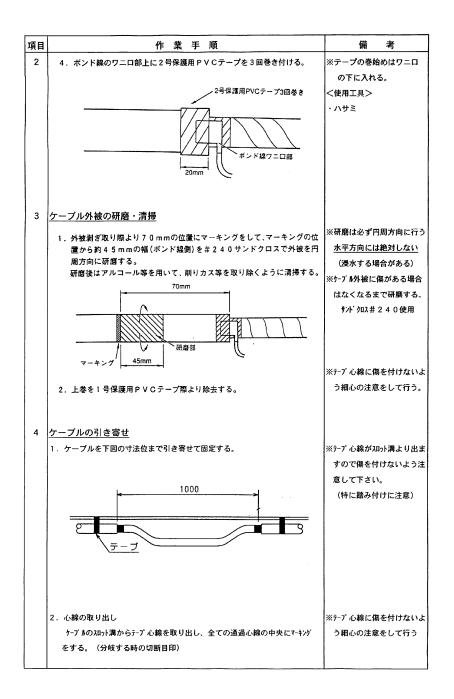
主な構成品一覧表

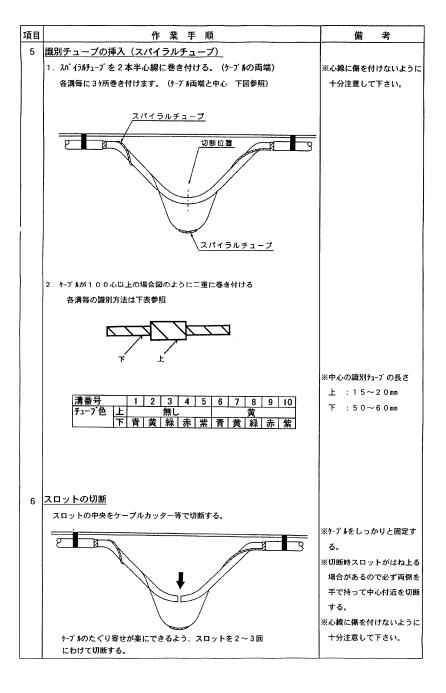
項	部品名	数量	備考	項	部品名	数量	備考
1	スリーブ(上・下)	1組	組み込み	1 0	アースボンド線	必要数	添付
2	バンド(長・短)	1組	組み込み	1.1	識別チューブ(スパイラル)	1組	添付
3	ガスケット	1組	添付	1 2	識別チューブ	1組	添付
4	通過心線トレイ	1個	組み込み	1 3	作業ラベル	1枚	添付
5	余長収納トレイ	9枚	組み込み	1 4	サンドクロス #240	1枚	添付
6	保護カバー	1組	組み込み	1 5	1 号保護用 PVC テープ	1巻	添付
7	マジックテープ	3本	組み込み	1 6	2 号保護用 PVC テープ	1巻	添付
8	ケーブル把持金具	必要数	添付	1 7	シリコングリス	1個	添付
9	グロメット	必要数	添付	1 8	工法書	1部	添付

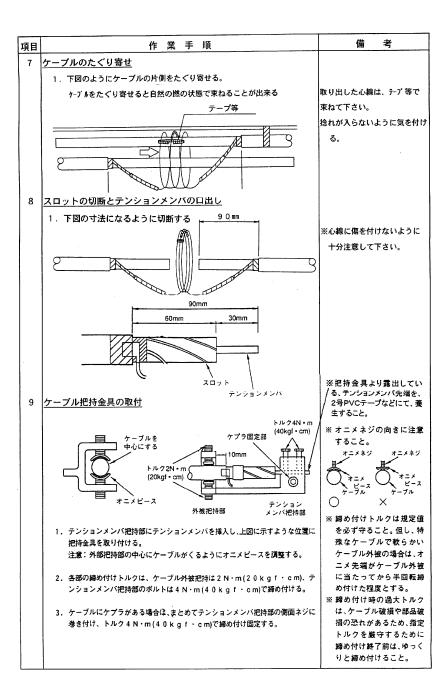
使用工具一覧表

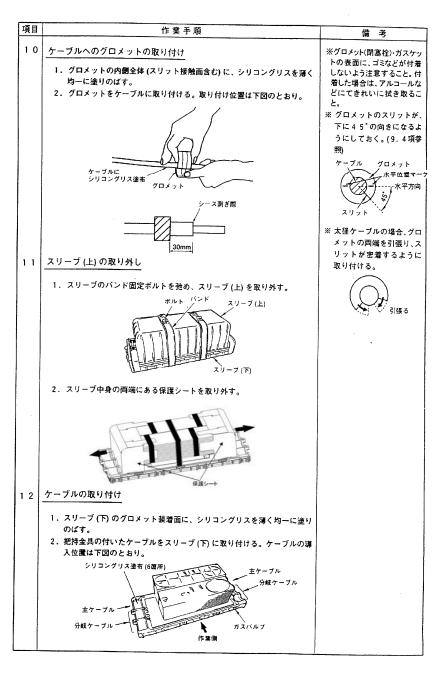
項	工具名	備考	項	工具名	備考
1	ボールポイントドライバー	呼び 5	6	ペンチ	
2	トルクレンチ	2~4 N·m以上	7	ラップカッター	
		(20~40 kg f-cm以上)			
3	トルクレンチソケット	呼び 5	8	コンベックス	2 m用
4	ニッパ		9	ケーブルカッター	
5	NTカッター		10	ワイヤークリッパー	

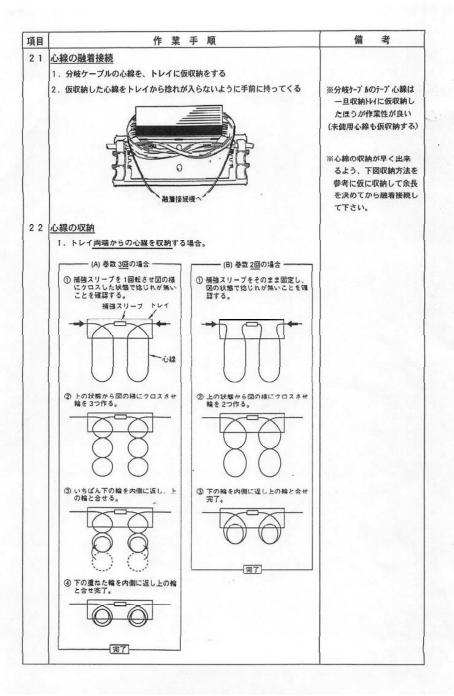


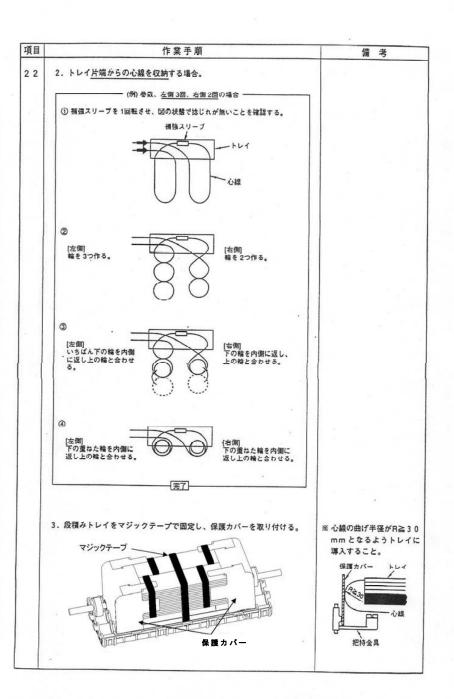




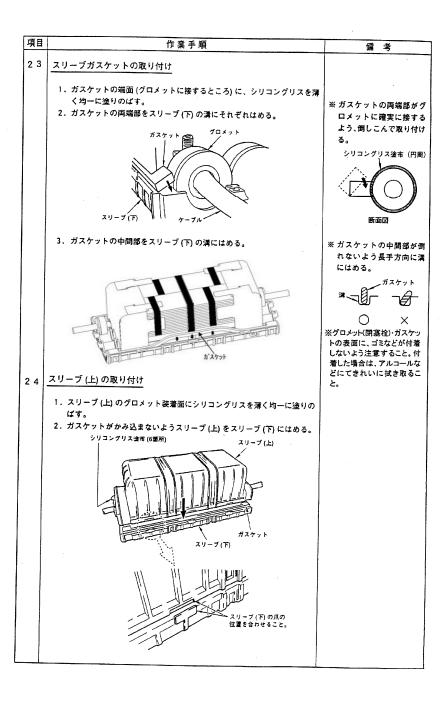


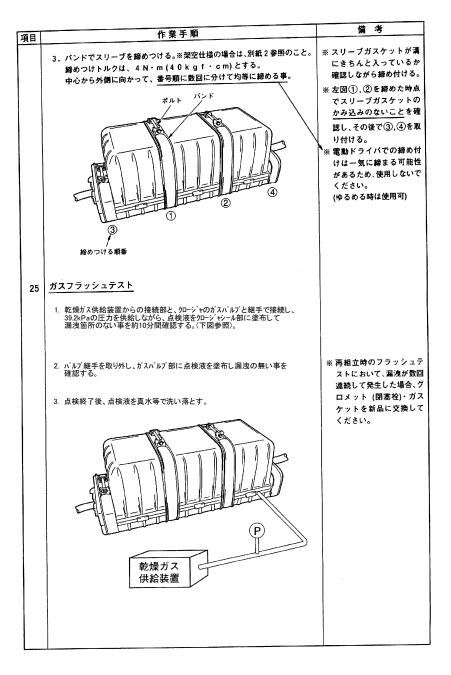


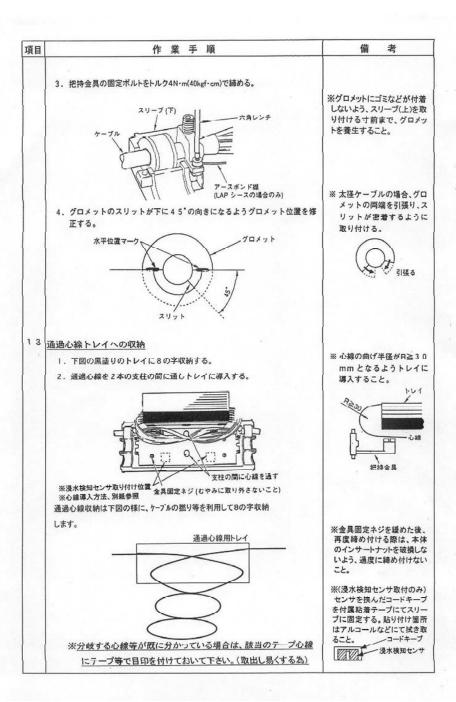


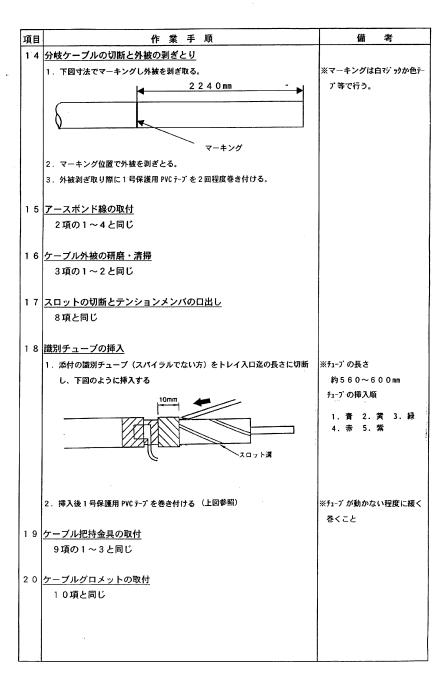


toom in







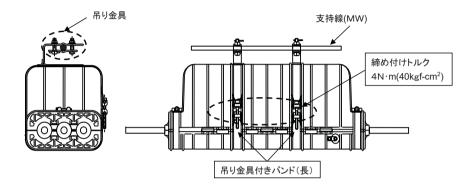


◆ 住友電気工業株式会社

架空設置方法

①締め付けバンドー体型の吊り金具の場合(FH3 吊り金具)

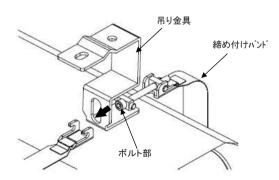
- (1)添付の吊り金具付き締め付けバンド(長)をスリーブに取り付ける。 下図参照 締め付けトルク 4N·m(40kgf-cm²)
- (2)ガスフラッシュテストを実施する。 15項と同じ手順で実施する
- (3)吊り金具でメッセンジャワイヤを挟み込みナットを締めて固定する。 締め付けトルク 4N·m(40kgf-cm²)以上を目安とする。



②締め付けバンドと別体型の吊り金具の場合(FH3 バンド組込型吊り金具)

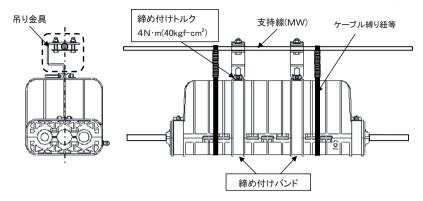
- (1)締め付けバンドのボルト部を添付の吊り金具の長穴に通し、スリーブに共締めする。 次ページ図参照 締め付けトルク 4N·m(40kgf-cm²)
- (2)ケーブル縛り紐等でクロージャとメッセンジャワイヤをしっかりと縛り固定する。
- (3)ガスフラッシュテストを実施する。 15項と同じ手順で実施する
- (4)吊り金具でメッセンジャワイヤを挟み込みナットを締めて固定する。

締め付けトルク 4N·m(40kgf-cm²)を目安とする。

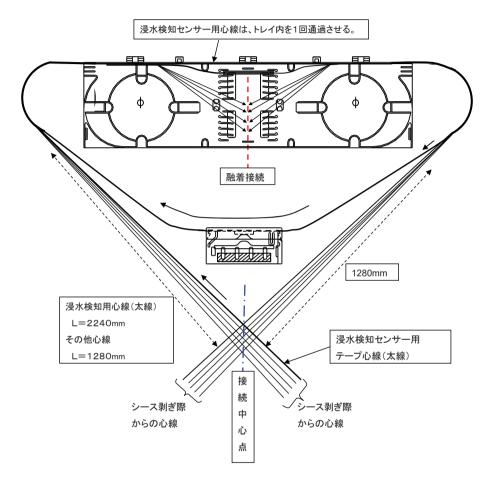


注意:メッセンジャワイヤ固定部とクロージャの中心がなるべく同じ位置になるように取り付けて下さい。

◆ 住友電気工業株式会社



浸水検知センサー用テープ心線の導入図(例)



別紙 資料-2

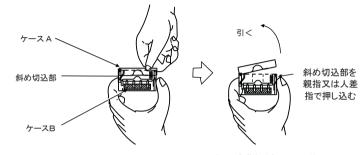
ETK9943038

浸水検知センサー取付け方法

住友電気工業株式会社

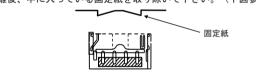
1. ケースA・ケースBの外し方

図のように、浸水検知センサーのケースBの両わきを指で押さえケースBの端を親指又は人差指で斜め切り込み部を押し込む様にしながら、もう一方の手で押し込んだ側のケースAを引いて、ケースAケースBを分離します。(下図参照]



本図は親指側を押し込んだ例

分離後、中に入っている国定紙を取り除いて下さい。(下図参照)



2. 浸水検知センサーの取り付け

ケースAとケースBの間に浸水検知用テープ心線を挟み込み、ケースAをケースBに装着します。 (装着時にカチッと音がします)

この時挟み込んだテープ心線が「捻じれていないか」また「ケースBの溝」に確実に入っているか確認して下さい。(下図参照]

装着が終了しましたら、ケースAとケースBが確実に嵌合しているか確認して下さい。

(原則として、浸水検知センサーにはテープ心線をばらさずにテープ心線のまま挟み込みます。)

